

～全国大会出場の報告～
三島スポーツ少年団

5/20 (水)



三島スポーツ少年団が、8月に行われる阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会2015の出場報告に市長を表敬訪問しました。主将の芦谷雄大くん（三島小6年）が、「1勝でも多く勝ち取れるように頑張ります」と力強く抱負を語り、市長は、「練習の成果を発揮してください」と激励しました。

西日本地区グローブ
空手大会で好成績

5/13 (水)



武勇会井上道場（井上由久代表）の山川将英くん、中野琉聖くん、三好理貴くんが市長を表敬訪問しました。3人は、3月に岡山県で開催された西日本地区グローブ空手大会（2015スーパーカラテ）で、山川くんが中量級で優勝、中野くんが軽量級で優勝、三好くんが決勝トーナメント進出という好成績を収めました。

未来のしこちゅ～を
考えるシンポジウム

5/24 (日)



福社会館で、「未来のしこちゅ～を考えるシンポジウム未来を創ろう！私たちのまち、みんなの手で！！」が開催されました。参加した中学生や高校生たちは自分たちが住むまちを見つめ直し、これからの四国中央市のまちづくりのあり方や方向性などについて自由に話し合っていました。

～稚鮎約7,000匹を放流～
稚鮎放流事業

5/13 (水)



金生町下分川原田橋近くの金生川で銅山川鮎釣りクラブによる稚鮎の放流事業が開催されました。この事業は、鮎を放流することで「美しい川はみんなで守るもの」という気持ちを育み、ふるさとの川として子どもたちの心に残るような美しく素晴らしい川に戻すことを目的に毎年実施されています。

第8回書道パフォーマンス
甲子園大会 PR ポスター発表

5/29 (金)



第8回書道パフォーマンス甲子園大会PRポスターの発表があり、ポスター作成者やパンフレットデザイン作成者、高校生企画員（市内3校から9人）の合計11人が参加しました。ポスター作成者たちは「躍動感あふれるポスターに仕上がった。出場者には楽しんで悔いの残らないパフォーマンスをして欲しい」と話していました。

中田井浄水場等更新整備
運営事業起工式

5/15 (金)



中田井浄水場等更新整備・運営事業起工式が行われ、市や施工業者など関係者約70人が、事業の無事故・無災害を祈願しました。現在の中田井浄水場は、昭和42年に運転を開始し、施設の老朽化や耐震性の不足などの問題を抱えており、本市の最重要防災拠点として、施設・設備の全面的な更新や耐震化などを行います。

四国中央地区更生保護サポート
センター開所式

6/3 (水)



伊予三島商工会館4階に開所した四国中央地区更生保護サポートセンターの開所式が行われました。同センターは、罪を犯した人や非行少年の立ち直りを助ける保護司の活動を支援したり、地域の教育、防犯、社会福祉などの機関や住民との連携を強化することで、安全・安心なまちづくりを行う拠点となる施設です。

～自分の夢色を探して～

noriko ハートフルコンサート

5/16 (土)



土居文化会館（ユースホール）でnorikoハートフルコンサートが開催されました。このコンサートは、今回で9回目となり「夢色を探して」をテーマに、障がいのある人も誰もみんながずっと笑顔で幸せに生きていける街を目指すことを目的として行われています。西森さんのピアノの音色や美しいコーラスの歌声などで観客を魅了しました。

～新宮茶を見て・ふれて・味わう～
霧の森お茶まつり 6/7 (日)



新宮町の霧の森で、恒例のお茶まつりが開催されました。会場では、ものまねショーや茶そばわんこ大会、各種バザー、もち投げ、

体験コーナーなどさまざまな催しが行われました。好天に恵まれた会場には、市内外の家族連れなど多くの来場客が訪れ、お茶の手もみを体験したりして、初夏のイベントを楽しんでいました。

～魚、魚、魚、魚を食べると～
幼稚園における魚食普及推進事業 6/2・9



川之江幼稚園と土居東幼稚園で魚食普及推進事業が実施されました。これは、川之江漁業協同組合（三好 猛 組合長）が近年、若年

層を中心に魚離れが深刻化し、調理が面倒などの理由で魚料理を作らない家庭が増加していることについて、消費者の魚離れを食い止めようとする趣旨から開催されました。

愛顔つなぐえひめ国体四国中央
市実行委員会第2回総会 6/4 (木)



福祉会館で愛顔つなぐえひめ国体四国中央市実行委員会第2回総会が開催されました。総会では、大会の概要や報告事項についての

説明などが提案され、承認されました。また議事後には、各地区に組織された国体協力会の委嘱式が行われました。協力会は、各公民館を拠点施設とし、共同民泊などの活動を行います。

～避難体験事業～
思い出キャンプ 6/6 (土)



川之江南小学校で、思い出キャンプ（避難体験事業）が開催されました。これは、金田地区愛護班連絡協議会と川之江南小学校PTA

が合同で行っており、応急手当や子どもによるカレー作り、ドラム缶風呂の準備などを体験しました。参加した子どもらは、けが人の搬送方法などを自分たちの手で体験し、楽しみながら学ぶことができました。

出張
実るトーク
(市長の移動談話室)

～このまちの未来につながる
あったかなご意見をお待ちしています！～

申問 秘書広報課 28-6003

篠原市長が目指すあったかなまちづくりについて、市民のみなさんのところへ出向き、貴重なご意見やご提案を直接お聞きする「出張 実るトーク」を開催します。ご希望のグループ・団体は、秘書広報課まで申し込みください。※個人や団体の争議に係る内容については、お断りする場合があります

- 目** 申し込み後、日程をお知らせします。
- 場** 団体の活動場所など、希望する場所に出向きます。
- 対** 政治活動、宗教活動又は営利活動を目的としない、市内で活動するグループや団体、学生、企業など

そんなことから、もともとお酒は強くはなく、家でも、缶ビールを2本も飲めば、酔ってしまっている。夜中に目が覚めて、今日議会関係者に説明をした内容を思い返してみた。内容はどれも、自分の肩にかかっている重大案件ばかりである。

この3年間、職員の皆さんには、大変苦勞をかけている。その評価は、あと10年先、20年先にならなければわからないだろうと思っている。賛否両論の中で、自分を支えるのは、自分に対する信念であり、己の人生に対する哲学かもしれないとも思っている。残っている日本酒約0・5合をきゅっつと飲んで寝ることにした。

昔、高校生の頃、好奇心で初めてビールを口に入れた時、こんな苦いものを、大人はどが旨いのかさっぱりわからなかった。それから自分は、34歳までアルコールをほとんど口にしたことはなかった。

34歳の年に、人生を決めるようなできごとに出くわし、簡単に言えば、お酒でも飲まなければ、やってられない心境になり、お酒の味を覚えたのである。やけ酒から身体に染み付いたと言っても良い。だから、お酒に溺れる人や、酔狂する人の気持ちは痛いほどわかる。

夜の会合が終わり、珍しく、真つすぐ家に帰った。ちようど、8時半であった。

冷蔵庫から、缶ビールを2本持って来て、テーブルの上にある口に入るものをモゴモゴさせながら、コップに入れたビールを一口飲むと、びりびりとくるほど美味かった。

**市長の
ひとりごと**



四国中央市長
篠原 実

テーマ
お酒